

飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 平成 27 年 6 月 19 日（金）午後 3 時～5 時
- 開催場所 飯山市公民館 201 会議室
- 参集者 委員：吉越会長 森崎委員 油科委員 上海委員 高杉委員

委員 8 名中 5 名出席

市側：石田館長 井端係長 木村 宇敷

1 開会

2 辞令交付

石田館長から 5 名の委員に辞令交付

3 あいさつ（美術館長）

教育長に代わって美術館長からご挨拶申し上げます。4 月から文化振興部が発足しました。文化振興は街づくりの重要な一翼を担うということで、どうかよろしくお願ひしたい。今、飯山駅の近くに文化交流館、愛称「なちゅら」も建設中である。年内には外構工事も含めて完成し、来年の 1 月 21 日が竣工予定日ということで、それまでに引っ越しを終えて 25 日から皆様に使っていただく予定に今のところなっている。なちゅらができると美術館をはじめとした文教ゾーンが駅の近くにできるので、それぞれの館の特徴を活かしながら少しでも皆様に活用していただける環境づくりを一体となって進めて行きたいと思う。

今日、美術館については事業報告があろうかと思う。新幹線が開業した。来館者も含めて力を入れながら皆様によりおいでいただけるような企画が出来て行けばいいかと思う。市民の皆様いろいろなご意見をいただきながら前向きな事業計画を立てていきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

4 自己紹介

委員 5 名、事務局 4 名の合計 9 名の出席者それぞれ自己紹介

5 会長選出

会長：吉越委員に決定、会長職務代理：次回の運営協議会で決定することとした。

6 協議事項

会 長 平成 26 年度事業報告について報告をお願いしたい。

事務局 (資料のとおり説明)

会 長 何かご意見等はあるか。

会 長 夏休みや春休みの体験教室でランプシェードをつくっているが、灯籠まつりにまとめて出展するとかできないのか。

事務局 和紙研究会で城門前の飾り付けの担当をしているが高齢化等の問題もありマンネリ化している。そういうところと合同でまた違った展示にしていくなど考えたい。

会 長 特に小中学生は人に見てもらえることが励みになるのではないか。

館 長 灯籠まつりは実行委員会が組織されていて、千坂先生が学校の子どもたちが作った灯籠を路上に展示する中心になっているので、千坂先生に相談させていただきたい。

委 員 開館日数だが、平成 23 年が少ないのは震災の影響だと思う。去年は 313 日だが、2 週間くらい多いのはなぜなのか。

事務局 確かに多い。だいたい 300 日くらいになるはず。数字があっているかどうかも含めて確認する。

- 会長 平成 27 年度事業報告について説明をお願いしたい。
事務局 (資料のとおり説明)
会長 要望等あればだしていただきたい。
委員 素人的発想だが、それぞれの企画に出てくる作品について興味を持つことが原点だと思う。作品を見て理解をするには、日本画や油絵、写真などいろいろな分野がある。なかなか良い企画だけ作品がわからないというのが素人の悲しさ。つまり一番の理想は作品ひとつひとつをいっしょに解説していただいて見るというのが一番楽しいのでは。そんなことは有りえないことで別にいいが、そういった意味で、来てわかるやつとわからないやつの差が私の場合はありすぎる。作品のそれぞれの良さを知る手段をここに来たらあればいいなと思ったりする。企画を読んで面白いと思って来るが、作品を見てもなぜいいのかわからない。
- 事務局 それは抽象的な作品とか具象的な作品とかそういう意味のことなのか。
委員 この一枚の作品がなぜそうなのかということ。
事務局 それぞれの作品の良さのことか。
委員 ここが見どころというもの。ここはこうすればこうなるというような美術館の手法はいろいろあると思う。
- 事務局 例えば企画展をやっている一点一点の作品に解説を付けているということもなくはない。でも見方を限定してしまうとか見る人に影響を与えることになる。作品は、作品と見る人との対話だから余分なものはない方がよい。もちろん必要ない人は見なければいいということで、あるかないかではあった方がよいという人もいるし、あると見てしまうのでない方がよいという人もいる。いろいろだと思う。いろいろなニーズがある。全部の作品につけなくても、特にこの作品はという数点を選んでこういうところは是非ご覧くださいというものを付けてそれをヒントに他のものも見ていただく。逆に作家はこういうところを見てほしいとか、こういうふうに感じてほしいとかがあるかもしれないけど、作品は見た人の気持ちがまず大事であって構わないと思うので、全部つけることがいいのかどうかというのは検討の余地がある。
- 委員 10 年も 20 年もかけて積み上げてきた技術や感性、その特色がいきなり見て理解できるほどプロじゃない。そこが一つ入るとそんな素晴らしいものだとわかる。
- 事務局 きっかけみたいなものだ。
委員 美術館にはやはり二つの役目がある。一つは、全く自由に作品と対話すると。これは本来の姿だと思うが、教育するとか、美術館に一人でも多くの人に足を運んでもらって、そこで美術について学んで帰ってもらうという教育の側面もあると思う。今のご意見は大事だと思う。
- 事務局 今のご意見に関して、そういったご希望もお客様からありますので、いろいろなニーズに対応する意味もある。見たい方だけ知りたい方だけご覧いただける鑑賞カードを会場の中につけるようにした。ここが重要だと美術館から主張しすぎると、見る人の感性や感じ方を誘導しかねないので、そのような表現を極力さけて、この作家がどのような意図でこの作品を作ったのかという紹介を作家ごとに少しずつ増やしているところである。技法の面やどのどういう風景を描いたのだとか作家の手記なども反映させている。解説の仕方、掲示の仕方などいろんなご意見もあると思うので、ご希望をおっしゃっていただければと思う。
- 委員 特に収蔵作品は意味を持って収蔵しているので、館の主張とか、主張までいかななくてもその作品を見るうえでとっかかりとなるものは学芸員のみなさんに出してもらわないと。なぜ美術館に寄らないかということもある。
- 委員 抽象的なものではなくて、作家の想いというのはすごく大事だと思う。
事務局 そういったことももちろん反映している。
委員 そういうふうにはあまり感じたことがない。非常に機械的な感じがしてしまう。自分なんかも絵を描くとき、どんな想いで描いたかをときどき書いていただくことがあるが、その方が見てくださる方が入り込んでくれることが多い。特に抽象的な絵は私はまだ見方がわからないので、どんな想いで作家が描かれたのか、ちょっとでも一言あれば入っていきやすいと思う。抽象的すぎて人間の本心というのが意外とわからないここは。作家さんの想いが意外とこの美術館は伝わってこない。いろんな展示会に私たちは行っている。この前は東京に行

ってきたが、やっぱり作家さんの想いがこんな小さなところでもあれば入り込む気持ちが違う気がする。どういうふうにとってもらっても自由だというのもあるが、作家さんはこういう想いで描いたというのもある。誘導しかねないというのが、誘導してもいいと思う。それで入り込んでくだされば。

会 長 非常に難しい点だと思う。聞かれた場合には、それなりに応えてあげるとするのが大事だろう。学芸員がしょっちゅうついているというのは容易なことではない。徐々に見に来てくれた方に接してもらったり、様子を見ながらやっていく中で、飯山らしい美術館になっていくのではないか。

館 長 この問題はケースバイケースだと思う。企画する作家さんにもよる。満足度を高めていくには研鑽していくことが必要。

会 長 中学生の美術展はどうして 300 人前後で、もっと大勢の方に見てもらえるようにならないのか。中学にはほとんどスクールバスがあるが、あれを活用して学校の生徒みんなに見せるような方法をとれないものか。

委 員 中学は 2 校だけ。全員が来れるかどうかは難しい問題があるが、行けなければこちらから学校へ出張したっていい。本当は照明をきちっとした美術館で見てもらうのが一番いいと思う。照明や雰囲気によって作品の輝きが違って来るから。出張とか場合によってはクラブだけでもいいし、来て見てもらおう。高校を卒業する前に一度は美術館というものを体験していくことは学校の美術のなかでも大事なことだと思う。美術展は長野や東京に行かなくては見られないというものではなくて、せつかくこんないい施設がある。収蔵作品も中央に引けを取らない作品がこの美術館にはたくさんある。学校、美術の先生に働きかけるということが大事ではないかと思う。

事務局 城北中学校の 2 学年がこの春、市内探訪というかたちで人形館・ふるさと館・美術館とあわせて城山で学習したりする機会がある。毎回、美術館とふるさと館はコースに入っているが、ここの休館日と重なってしまい、ここ何年か来れないことがあった。

委 員 それは日程調整の問題。学校も考えなくてはいけない。それほど技術的に大変な問題ではなくて、学校が事前にこちらに相談するなどすればよいこと。

事務局 3 年生かほかの学年が別の行事でいない間に来るような計画の立て方だったと思う。

館 長 委員のおっしゃるとおり調整の問題なので、早い段階からスケジュール調整すれば十分可能な話である。

委 員 修学旅行も決まっているはずだから、こちらから逆に働きかけて是非来てもらいたい。来る日が事前にわかれば調整するとか、そういうことではないか。

会 長 是非前向きに考えてもらいたい。

委 員 関連して大人だが、去年の 10 月に飯山市内の方に呼びかけて 30 名くらいが、ふるさと館・未来館・美術館・公民館で文化交流をしたが、参加した人から学芸員のお話を聞くことができととても良かったとアンケートに書いてあった。子どももそうだが誰かがそういう企画をすればそれなりに喜んで見ていただけるのでは。

委 員 絵の説明をするというのではなくて案内をしてあげるといふか、そういうことをしてやらないとただボーっとしてわからないまま帰ってしまう。この中にもいい抽象画がいっぱいある。絵はまだいいけど、箕口博の抽象彫刻になるとある程度解説してやらないと、ただ板立てかけてあるのかということになってしまう。芸術は鑑賞者と作品との対話で、自分で見るものと突き放すのも大事だが、もう少しそこへとっかかる道案内といふかガイドブックみたいなものがないと。ちょっと一言あると、ここからみるのかといふふうになるのではないか。私などは絵を描いていていいかどうかなどさっぱりわからない。だけど先生にこのところが良いんだよと言われて、すぐにはわからないけども、とっかかりは学芸員さんの大事な仕事じゃないか。

会 長 ご提案なので参考にしてもらいたい。

会 長 それからもう一点、阿部さんがご出席なら是非お願いしたかったが、和紙が世界遺産になったが、飯山にも内山紙がある。そういうものがあるのに買いに行けば、実際には手漉きで漉いている人はもうほとんどいないとか。阿部さんの組合も何人しかいないなど、最近はさみしい話しか耳にしていない。せつかく世界的にも認められ、幸いにして和紙工房というも

があるので、それをいかに有効に活用して地元の文化的な遺産をしっかりと残していくような方策というのは、これは美術館ではなく、是非、市をあげて取り組むことが必要だと思う。そうしないと完全に終わってしまう。また、使われなくなった道具は数年経つとだめになるようだから、そういうものを和紙工房などに持ってきて、もっと有効に活用するなり技術を伝授するなり教えてもらうとか。何かしないと内山紙が消えてしまうのではないかといつも危惧している。

館長　　こういう話があった。アメリカ人のご夫婦が新幹線で飯山駅に降りて、仏壇がきれいだということでご覧いただいた後、和紙の手漉きを体験して帰られた。お泊りは飯山ではなく金沢だった。新幹線が出来たので、仏壇や和紙は海外の皆様にとって非常に価値のあるものとして捉えられているので、和紙などを美術館のウリとして少しやっていくのも方法と考えている。

会長　　金箔貼りにしても海外の人たちにとってすごく魅力があるようだ。

館長　　ソーシャルネットワークが完璧に普及しているので、一人一人が情報発信源になる。そういうことでは情報の出し方見せ方は美術館も大事だと思っている。

委員　　おっしゃる通りだ。野沢温泉もオーストラリア人が長期滞在していて、仏壇街を若い人が歩いている。簡単な英会話を勉強しなければいけないと。英語のパンフレットをつくったりしているが、買うか買わないかは別として興味を持って下さる方は大勢いらっしゃるようだ。今まで金仏壇というのは一定の限られたエリア、北陸とか関西だが、テレビで全国放送とかやると全然関係なかった茨城や栃木、静岡など全然違うところから興味を持っていただくことがある。まだまだ可能性があるのではないかと感じている。ワークショップの実績報告も見せていただいたが、いかにうまく告知して人を寄せてくるかが大事さだと思う。

委員　　和紙のことは美術館が地元に対して発信していくのであれば、美術館と和紙の展示館がもっと連携しなければいけないのではないかと。

委員　　行政の方で言うと全然管轄が違ってしまう。

委員　　やっぱり繋がらなければだめだと。仏壇は仏壇、美術館は美術館、和紙は和紙、美術館が和紙を細々とというのではなかなか成果は期待できない。

会長　　平成 28 年度以降の企画展について説明をお願いしたい。

事務局　　(資料のとおり説明)

会長　　ご意見をお願いしたい。もっと新しい別な案などあればお願いしたい。

委員　　中川岳二さんについてお聞きするが、この展示場を満杯にするだけの作品はあるのか。ちょっと心配なのは玩具は小さいものなので、奥の展示室でやるということはそういう見通しは大丈夫なのか。

事務局　　それを考慮して作家の方で作品の選定をしてもらっているところです。おもちゃは小さいものだが 1 メートルくらいの大作も何十点かありますので。

委員　　では数は十分に間に合うという見通しを持ってやっているのか。

事務局　　その通りである。

事務局　　企画書にもあるが、メインは中川さんの作品展示、ロビーはプレイスペースとして触れる作品を用意して、是非小さい子たちが見に来て中川さんのおもちゃで遊んでいる場を作りたい。そして 2 階のギャラリーは中川さんの作品と組み合わせるのにふさわしい、中川さんから見れば先輩格の方で黒三郎さんという組み木の第一人者の方も紹介します。

委員　　これを見て心配になったのは、どっちが主だったのかわからなくなってしまっているのではないかと、そういうことはないか。

事務局　　大丈夫である。

委員　　それから玩具で 2 か月という期間は長すぎないか。もう少し短くても良いのでは。

事務局　　詳細はこれからだが、2 か月以内であれば問題ないと。

委員　　齋藤一郎展は何か月か。

事務局　　2 か月ちょっとだった。

会長　　まだ先の話なのでもう少し詰めてもらいたい。

やるということ、こういう計画を立てているということについてはよろしいか。

委員　　和紙は市内でも工芸品として展示されたりしているが、さきほどのワークショップでも参

加者が少ないようなことがあれば、和紙の機能というかそこに紹介してないところがあって、この紙はこうしてつくるという紹介はあるのだけど、和紙というものと墨とか、その間にどくなっていくのだということを紹介していくともう少しわかりやすいのではないかと思う。言い方は面倒くさいが、和紙と硯展だとか、そうすると和紙としての意味が見えてくるのではないか。それを書道とか水墨画にしてしまうと面白くないが。和紙と文人とかに近寄ってしまうが、和紙と何か、例えば硯はとても高価なものもあるが、そういった硯と紙を見たとき、そこに墨というものが介在する。和紙の機能がこうだからこれが生きるとか、そういう考え方はないのかと思う。いつもは白い紙を折ったり並べたり膨らませたり展示したりする姿にかなり飽きていると思う。

館長 和紙というキーワードでもここは美術館なので、美術館としての切り口で考えていかなければならないと思う。そうした中で、展示の仕方などを工夫する中で、美術館としての和紙の見せ方は検討材料になると思うので少し勉強させていただきたい。あまり和紙に固執するばかりに和紙の展示館みたいになってしまうと美術館の趣旨と変わってきてしまうと思う。それらについて研究していきたいと思います。

会長 まだ先のことがいろいろ準備があるので、28年度、29年度にはこのような計画を進めて行ってよろしいか。率直な意見を出してほしい。

では、このような方向で進めて行くということで皆様のご了解をいただいたということでお願ひする。

会長 話が遡って悪いが、沿線美術館の展覧会は予算的なことが原因でできなかったのか。

事務局 他の企画展に想定以上の経費が必要になったことによる。

館長 本来は補正を取ってやるべきではないかと思われるかも知れないが、新幹線絡みの企画でこれはどうかというものがあるので。

委員 最初の計画をきちっとやっておかないといけない。

館長 ご指摘の通りです。

会長 今後、気を付けてやっていただくということをお願いしたい。

会長 作品寄付受け入れについて説明をお願いしたい。

事務局 (資料のとおり説明)

会長 この件についてはこれでよいか。

では、ご理解いただいているということでもよろしくお願ひする。

会長 全体で何かご意見あるか。

委員 資料の作家一覧は郷土の作家だが、齋藤一郎展のように大きくなくても企画展みたいなことはやってきているのか。

事務局 資料の作家一覧は現役の作家で27ページは物故作家である。それぞれ展示実績という欄があつてそこに書いてある。

委員 ギャラリー展は30年以降はどうなっているのか。

事務局 ギャラリー展ということでお互いの条件が合えば開催できるので臨機応変にやっていきたい。ただ、ギャラリー展にはこれといった予算がないので、チラシを作るのかどうかというところである。チラシも作れないこともある。また、美術館の企画としてやっているの、誰でも希望があればできるというものでもない。例えば、関修さんの写真展では、関さんに案内はがきをつくってもらうなどして開催した。

委員 ちょっと表(作家一覧)の見方がわからなかったの。

事務局 説明が足りなかったと思う。

事務局 この作家一覧はもう開催したからいいという意味ではなく、今後もこういう方々の出番を考える必要があるということで常に協議会の資料としている。

会長 そのほか全体的にどうか。ないようなのでこれで終わりたい。

事務局 その他は特になし。

事務局 本日はありがとうございました。

4 閉 会